

令和7年度 まちの保健室委員会 活動報告

■委員名	委員長：数原法子 副委員長：小林さおり 委員：福田和美・上山美紀・山田 愛・藤井秀子・小西みゆき・児嶋朱美 藤原真希・木村昌子・西原沙織・大迫しのぶ・勝田玲子 オブザーバー：兵庫県看護協会副会長 松岡千代
■開催回数	6回
■活動目標	1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命の延伸に貢献する。 3. 社会状況に応じた新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。
■活動内容	1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 1) 住民の日常に基づいた「まちの保健室」活動とするために、計測機器による活動から看護相談を主とした活動に移行した。 2) 看護相談を主とした活動の支援のため、「まちの保健室」研修会を企画し、実施した。 開催日：令和8年1月24日 対象者：「まちの保健室」拠点リーダー・ボランティア、看護相談業務に係る看護職 参加者：会場19名 オンライン24名 計43名 テーマ：「看護職ならではの看護相談 ー相談対応力を発揮するためにー」 講師：神戸大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授 宮脇郁子 氏 3) 「まちの保健室」ボランティア登録および活動費支払いシステムの確立に向け、各支部の現状や課題を共有した。 2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命に貢献する。 各支部が地域課題の多様化に応じたリーフレットを選択・注文できる体制を整備するにあたり、子育て支援、介護相談、認知症相談など、地域住民が抱える多様な健康相談ニーズについて共有し、協議を行った。 3. 社会状況に応じた、新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。 「まちの保健室」活動としてまちの減災・防災についての知識を深め、活動をするために、地域の減災をテーマとして開催した「災害支援ナース研修・交流会」の参加を呼びかけ、まちの保健室委員7名、支部委員5名が参加した。 開催日：令和7年12月16日
■活動の評価	1. 県民の視点に立ち、日常に基づいた「まちの保健室」活動を継続する。 看護職本来の専門性を活かした看護相談を主とした活動は、住民の生活に寄り添った身近な内容の対応となっている。各支部で地域特性に合わせたリーフレットを注文できる体制整備の協議や看護相談力を高めるテーマの研修は、ボランティアの活動を支援することに繋がった。

	「まちの保健室」におけるボランティア登録および活動費支払いシステムの構築にあたっては、各支部の現状や課題を協議することで、実態に沿った仕組みとなるよう調整でき、より実態に即した実効性の高いシステムの構築となった。 2. 地域課題の多様化に伴い、支部ごとに特徴的な活動を創出し、受診勧奨・健康寿命に貢献する。 各支部でリーフレット選択の体制整備を検討する過程を通じて、地域住民の生活背景や健康課題を改めて整理し、共有することができた。地域に必要なリーフレットの検討は、地域課題への理解を深めるとともに活動内容を見つめ直し、看護相談の取り組みがより地域に開かれ、地域に即した活動を推進していくうえでの貴重な機会となった。 3. 社会状況に応じた、新たな健康相談等の方法を模索し、活動につなげる。 地域のまちの減災・防災を「まちの保健室」の活動に取り入れていけるよう、災害支援ナース・減災ナースと連携を図る目的で、災害支援ナース研修会の周知を行い、参加を促すことができた。これにより、災害支援ナースが「まちの保健室」ボランティアとして登録が促され、防災・減災を取り入れた「まちの保健室」活動に繋げていく第一歩となった。
■今後の課題	・「看護職ならではの看護相談」を強化する研修会の企画を継続する。 ・まちの減災、防災の活動を取り入れられるよう、災害支援ナース・減災ナースとの連携が継続的に持てる体制の構築を行う。 ・「まちの保健室」ボランティア活動の活動費入力システムのスムーズな運営を行う。